

生徒指導・特別支援校内委員会



1 7月7日の予定 【部会】

(1) 低中高の各部会

① 事前準備

前回、部会ごとに行ったケース会議の対象児童については、うまくいった支援、うまくいかなかった支援等含めて、数分で経過報告できるようにしておく。

また、今回も部会において、情報提供し支援方法について検討してほしい児童を各学級1人決めおき（前回と同じ児童でも別の児童でも、どちらでもかまわない）、改善を図りたい事項1つについて簡単なメモを用意しておく。

② 部会ごとの児童情報交換

各学級1人ずつ情報交換していく。

※ 各部会の司会者は、児童の個人写真を提示してください。

※ 記録者は、4～5人分の概要を記録し、後で入力してください。

データ場所：04校務→10生徒指導→01生徒指導・特別支援校内委員会フォルダ内の「R3生徒指導・特別支援校内委員会マル秘」

③ 部会ごとのミニケース会議

②で挙げた児童のうち、緊急性の高い、もしくはチームでの支援が必要と思われる児童1人についてミニケース会議を行う。

※ 司会者は、直近1か月以内に校内でできる支援とそれに関わることのできる人材、校外に要請する支援について明確になるよう進行して行ってください。ケース会議マニュアルを参考にしてください。かさてもかまいません。

※ 記録者は、学級担任の主訴やそれに対する支援方法、関わることのできる人材などをホワイトボードに整理して行ってください。指導者の助言を記入後、デジカメで撮影し、データ場所：04校務→10生徒指導→01生徒指導・特別支援校内委員会→校内委員会（部会別ホワイトボード記録）→R3フォルダ内の「ケース会議7月」に（例）「ケース会議（低）」などと名前を付けて保存してください。

④ 全体会（専門指導員の鎌田昌代先生からご指導をいただきます。）

部会ごとのミニケース会議で明確になったことや支援方法などを司会者から話し、職員間で情報共有したり、具体的な支援を分担したりする。

⑤ 事後

学級担任や当該児童に関わった教職員は、その後の支援とそれによる児童の変容を把握しておき、次の校内委員会で情報提供できるようにしておく。

(2) 各部会の場所／◎司会者、○記録者、●指導者

低学年：相談室／◎○●校長先生

中学年：職員室／◎○●専門指導員

高学年：校長室／◎○●教頭先生

2 ユニバーサルデザイン授業

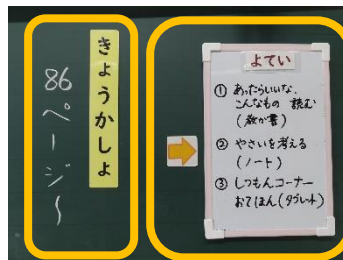
5・6月と、「めあての明確化」と「学習の見通し」に重点を当てて取り組んでいただきましたが、いかがでしたか。4組では、1時間ごとの内容を示したミニホワイトボードを黒板に掲示し、授業の初めに「この時間にすること」として確認したり、活動内容が進む度に矢印を動かしたりして達成感につなげたりしています。子どもたちも、入室するとすぐに、ミニホワイトボードを確認する習慣がついていて、「今日は〇〇するんやな。」とつぶやき、うっかり掲示し忘れてしまうと、「えっ、今日は何するん？」と突っ込みをいれてくれます。

学習内容を先に提示してしまうと、子どもの思考の流れに沿った学習展開ではなく、教師誘導になってしまうのではないかという場合は、「①新出漢字②音読③話し合い」といったざっくりしたものでもいいし、「①めあて②自分で考える③ペアで話し合う④みんなでまとめる⑤練習問題⑥ふりかえり」といったパターンのなものでもいいと思います。見通しがもてないと、そわそわしてしまう子や最後まで頑張れない子には、タイマーで時間を示したり、課題がプリント1枚なのか、2枚なのか（あるいは、何ページまでなのか）を明確にしたりできるといいと思います。

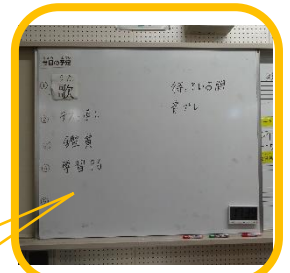
めあてや**見通し**を明記されている先生方の黒板を紹介します。

口頭だけでなく、黒板上にも、することと順序や時間を示すと見通しが持ちやすいです。

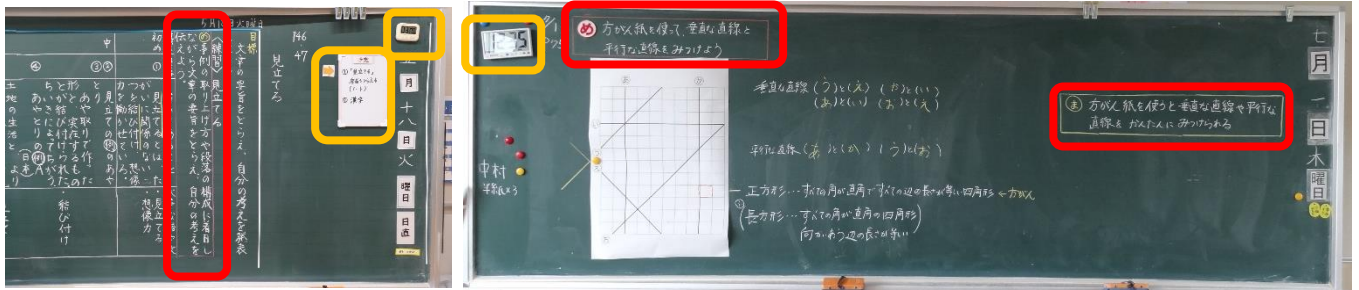
めあてやまとめも大切ですね。



- ① ノート (教科書問題)
- ② ドリル P34まで
- ③ 算学 P24まで



場を作っておき、カードを貼り替えるアイデア!



3 就学指導

以前お知らせしたとおり、来年度から特別支援学級への入級を進めたい児童に関して調査票を作成します。第一次調査票（提出しめ切り7月26日）については、保護者の承諾がまだ得られていない状態でも名前だけあげておき、あとから取り消すことができます。見込みの段階でもお知らせください。

今年度新たに、さぬき南小と志度小に通級指導教室ができたそうです。希望者が複数いれば、来年度、寒川小にも自校通級（巡回指導型）ができる可能性があります。詳しくは、別紙「教職員向けガイド」をご覧ください。期末懇談会で保護者に説明する場合は、「保護者向けガイド」もありますので、必要数をお知らせください。ただ、この通級指導教室は、他校との兼ね合いもあるので、申し込めば必ず指導していただけるとは限りません。また、通級指導教室の対象は、LDやADHD等の児童となります。すでに診断を受けていて、特別支援学級入級ほどではないけれど、特別な個別指導を受けさせたい児童にとっては、よい機会だと思われます。今回、申し込みは見送るけれど、通級指導教室を体験してみたいという児童があれば、2学期の放課後に荒木が指導するので、お試してください。（詳しくは5月10日の校内委員会日より参照）